

## セグメント情報

### 事業の種類別業績

#### 機械加工品事業

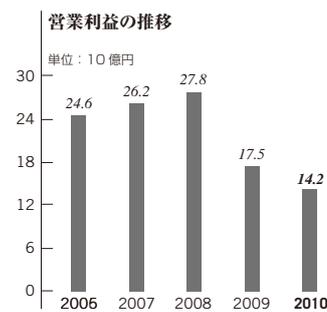
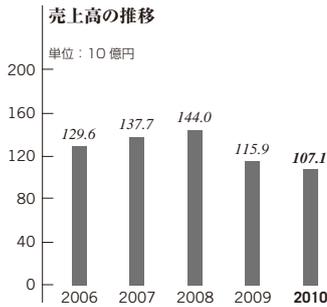


機械加工品事業の売上高は107,088百万円となり、前会計年度に比べ8,784百万円(△7.6%)の減収となりました。営業利益は、14,235百万円と前会計年度に比べ3,234百万円(△18.5%)の減益となり、売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)は13.3%と前期より1.8ポイント低下しました。基礎技術・製品技術・製造技術を追求することで、継続的な原価低減に努めましたが、前会計年度終盤に行った大幅な減産による製造原価への悪影響もあり、減収減益となりました。

#### 主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の世界市場占有率(注)
ベアリング及びベアリング関連製品		
ミニチュア・小径ボールベアリング	各種小型モーター、家電、情報通信機器、自動車、産業機械	60%
ロッドエンド&スフェリカルベアリング	航空機	50%
ピボットアセンブリー	HDD	60%
その他機械加工品		
特殊機器、ネジ	航空機、自動車、産業機械	—

注：市場占有率は数量ベース。ロッドエンド&スフェリカルベアリングのみ金額ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しております。



#### 主要製品

##### ●ベアリング及びベアリング関連製品

ミニチュア・ボールベアリング  
小径ボールベアリング  
シャフト一体型ボールベアリング  
ロッドエンドベアリング  
スフェリカルベアリング  
ローラーベアリング  
プッシング  
ピボットアセンブリー  
テープガイド

##### ●その他機械加工品

航空機用・自動車用ネジ類  
特殊機器  
電磁クラッチ/電磁ブレーキ

#### 事業詳細

前会計年度に比べ、主力製品であるボールベアリング、ロッドエンド&スフェリカルベアリングの販売が年度前半での市場環境の悪化により減少しましたが、年度後半には市場の回復により売上が増加し、生産の増加による効率改善により利益的にもボールベアリングを中心に大幅に改善しました。ピボットアセンブリーは、年度前半に主要な販売先であるHDD業界への販売数量は増えたものの円高の影響により売上高は横ばいでしたが、年度後半には旺盛な市場の需要により売上が増加しました。

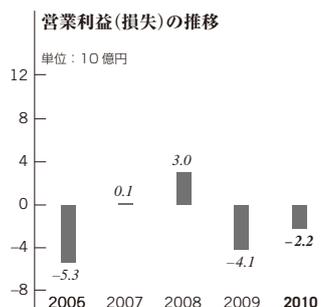
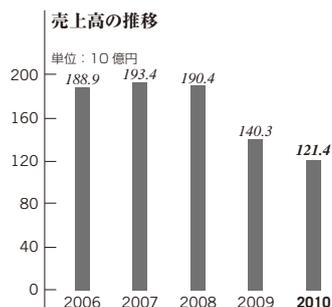
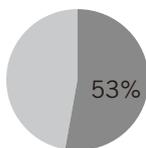
ミニチュア・小径ボールベアリング事業では、歩留まり向上と合理化による原価低減を継続して行っております。また、製造の原点への回帰をテーマとして事業の強化を図りながら、基礎技術開発部門の強化も図っております。さらに事業再編の一環として、2009年4月に英国NMB-MINEBEA UK LTDのスキグネス工場を閉鎖し、生産設備は中国の上海工場に移管しました。今後につきましては、旺盛な需要に応えるため増産に努める一方、新工場の建設を進めてまいります。

ロッドエンド&スフェリカルベアリング事業では、将来の航空機需要に対応するため、軽井沢拠点にて新工場を、藤沢拠点においては新航機工場(表面仕上げ)を建設し、稼働を開始しました。また、従来から展開しているロッドエンド&スフェリカルベアリングに加え、エンジン周辺部でのボールベアリング部品やより高度な加工技術を駆使した大型メカパーツ分野への進出を図っております。

ピボットアセンブリー事業では、歩留まり向上など継続的な原価低減と増産対応を図っております。今後につきましては、HDD市場の拡大を見据え、新工場の建設を進めてまいります。

## 電子機器事業

全体に占める  
売上高比率



## 主要製品

### ●回転機器

ハードディスクドライブ(HDD)用  
スピンドルモーター  
ファンモーター  
ハイブリッド型ステッピングモーター  
PMステッピングモーター  
ブラシ付DCモーター  
振動モーター  
VRレゾルバ

### ●その他電子機器

パソコン(PC)用キーボード  
スピーカー  
エレクトロデバイス製品  
カラーホイール、  
液晶用ライティングデバイス、  
バックライトインバーター  
計測機器  
ひすみゲージ、ロードセル

電子機器事業の売上高は121,358百万円と前会計年度に比べ18,933百万円(△13.5%)の減収となりました。売上が減少する状況下でしたが、各種モーターを中心に原価低減に努めた結果、営業損失は2,176百万円と前会計年度に比べ1,887百万円の改善となりました。売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)は△1.8%と前会計年度より1.1ポイント改善しました。

## 主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の 世界市場占有率 <sup>(注)</sup>
<b>回転機器</b>		
HDD用スピンドルモーター	HDD	8%
情報モーター (ファンモーター、ステッピングモーター、 ブラシ付DCモーター、振動モーター)	PC・サーバー、情報通信機器、 家電、携帯電話、自動車、 産業機械	製品により 2～20%
<b>その他電子機器</b>		
PC用キーボード	PC	3%
液晶用LEDバックライト	携帯電話、デジタルカメラ、 デジタル携帯端末	10%
スピーカー	オーディオ機器、PC、自動車	—
計測機器	産業機械、自動車、ゲーム機	—

注：市場占有率は数量ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しております。

## 事業詳細

前会計年度に比べ、液晶用バックライトは、自動車向けの拡販や携帯電話機向けの回復もあり販売が増加しました。一方、情報モーターをはじめとした各種モーターは、年度前半の市場環境の悪化と円高の影響により売上高が減少しました。計測機器は、ゲーム機市場向けの販売が低下しました。

スピンドルモーター事業では、市場の成長性が高く単価の高い2.5インチHDD向けスピンドルモーターに注力し、その生産・販売の拡大、歩留まり向上及び開発力の向上に努めております。

情報モーター事業では、新製品の投入やシナジー効果の追求を図っております。また2010年4月より、パナソニック株式会社から譲り受けましたDCブラシレスモーター製品群が新たに加わりました。

キーボード事業では、高付加価値商品の開発、コスト削減や効率化を推進しております。

エレクトロデバイス製品事業では、車載向け液晶用LEDバックライトなどの中小型液晶用LEDバックライト製品の拡大、生産体制の拡大を行っております。

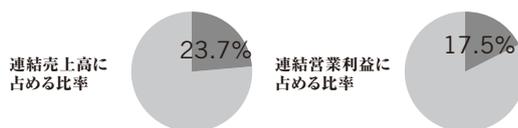
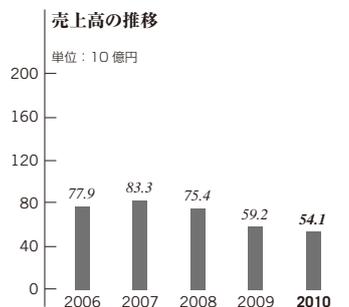
スピーカー事業では、高付加価値品への特化、売上の拡大に努めております。

計測機器事業では、新製品の開発、新市場の開拓を行っております。

## 所在地別業績

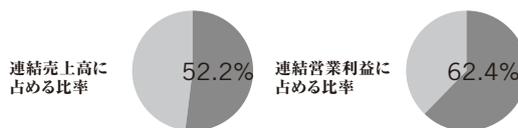
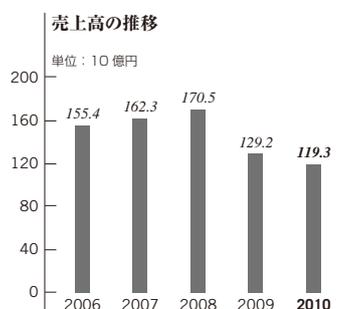
### 日本

日本地域は、総じて需要が低迷し、売上高は54,065百万円と前会計年度に比べ5,089百万円(△8.6%)の減収となりました。売上が減少する状況下でしたが、原価低減と経費削減を徹底した結果、営業利益は2,106百万円と前会計年度に比べ845百万円(67.0%)の増益となりました。



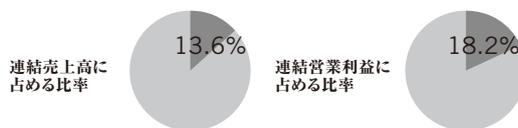
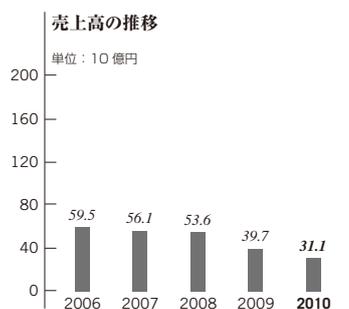
### アジア(日本を除く)

アジア地域は、成長を続けている中華圏を含み、多くの日本、欧米等のメーカーの生産拠点として重要な地域であります。売上高は、円高の影響と年度前半のボールベアリング及び情報モーターの販売減少の影響もあり、119,333百万円と前会計年度に比べ9,910百万円(△7.7%)の減収となり、営業利益は7,525百万円と前会計年度に比べ723百万円(△8.8%)の減益となりました。



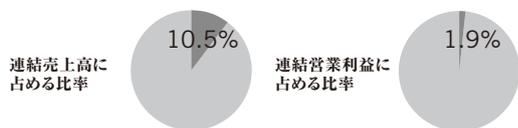
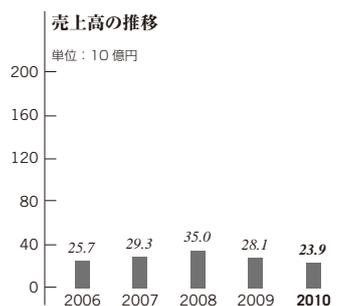
### 北米

北米地域は、米国生産の航空機用ボールベアリング及び航空機関連業界等向けのロッドエンドベアリングが比較的堅調に推移しましたが、年度後半には需要の減少と円高の影響により、年度全体では前会計年度に比べ売上が減少しました。また、高付加価値製品に特化を進めているキーボードやスピーカーの売上也減少しました。この結果、売上高は31,137百万円と前会計年度に比べ8,550百万円(△21.5%)の減収となり、営業利益は2,200百万円と前会計年度に比べ633百万円(△22.4%)の減益となりました。



### 欧州

欧州地域は、景気後退基調の中で、全ての製品において低迷しました。特に電子機器関連製品は、市場環境の悪化により低迷しました。年度後半には一部の市場の回復も見られましたが、年度全体で売上高は23,911百万円と前会計年度に比べ4,168百万円(△14.8%)の減収となり、営業利益は228百万円と前会計年度に比べ836百万円(△78.6%)の減益となりました。



(注) 売上高：外部顧客に対する売上高